

**製品名: MMP-7 ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab13996**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	人間、マウス、ラット、サル
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:20000-1:40000
分子量	29kDa

**抗原情報**

遺伝子名	MMP7
別名	MMP7; MPSL1; PUMP1; Matrilysin; Matrin; Matrix metalloproteinase-7; MMP-7; Pump-1 protease; Uterine metalloproteinase
遺伝子 ID	4316.0
SwissProt ID	P09237
免疫原	抗血清はヒト MMP-7 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 218-267

**背景**

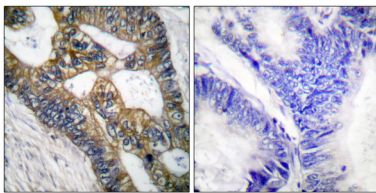
マトリックスメタロペプチダーゼ 7 (MMP7) Homo sapiens この遺伝子は、マトリックスメタロプロテアーゼ (MMP) のペプチダーゼ

M10ファミリーのメンバーをコードしています。このファミリーのタンパク質は、胚発生、生殖、組織リモデリングなどの正常な生理学的プロセス、および関節炎や転移などの疾患プロセスにおける細胞外マトリックスの分解に関与しています。コードされているプレプロタンパク質はタンパク質分解によって処理され、成熟したプロテアーゼが生成されます。この分泌型プロテアーゼは、プロテオグリカン、フィブロネクチン、エラスチン、カゼインを分解し、保存されたC末端ヘモペキシンドメインを欠いている点で、ほとんどのMMPファミリーメンバーと異なります。この酵素は創傷治癒に関与しており、マウスの研究では、腸粘膜のディフェンシンの活性を調節していることが示唆されています。この遺伝子は、11番染色体上のMMP遺伝子群の一部です。この遺伝子は、複数のヒト癌において発現レベルが上昇しています。[RefSeq提供、2016年1月],触媒活性: インスリンB鎖の14-Ala-|-Leu-15および16-Tyr-|-Leu-17を切断します。I型、II型、IV型、V型コラーゲンには作用しません。ゼラチン鎖 $\alpha$ -2(I) >  $\alpha$ -1(I)を切断します。補因子: サブユニットあたり2個のカルシウムイオンを結合します。補因子: サブユニットあたり2個の亜鉛イオンを結合します。ドメイン: システインスイッチモチーフに存在する保存されたシステインが触媒亜鉛イオンと結合し、酵素を阻害します。活性化ペプチドの放出により亜鉛イオンからシステインが解離し、酵素が活性化される。機能: カゼイン、I型、III型、IV型、V型ゼラチン、およびフィブロネクチンを分解する。プロコラーゲナーゼを活性化する。類似性: ペプチダーゼM10Aファミリーに属する。、

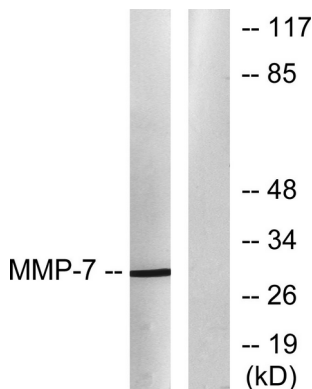
## 研究分野

WNT;WNT-T細胞

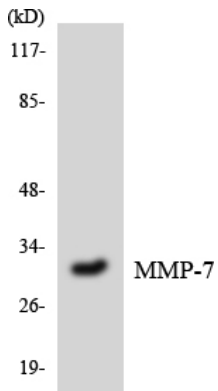
## 画像データ



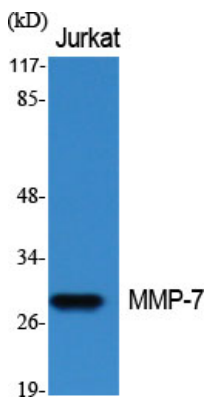
MMP-7抗体を用いたパラフィン包埋ヒト大腸癌組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした画像。



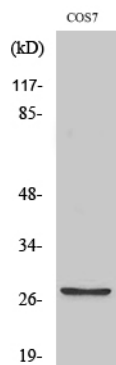
COS7細胞ライセートのMMP-7抗体を用いたウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



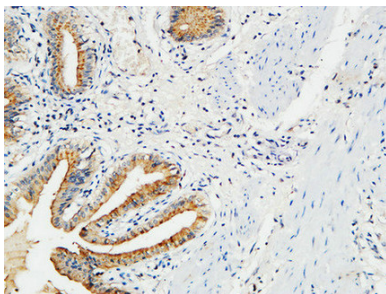
MMP-7 抗体を使用した HT-29 細胞の溶解物のウエスタン ブロット分析。



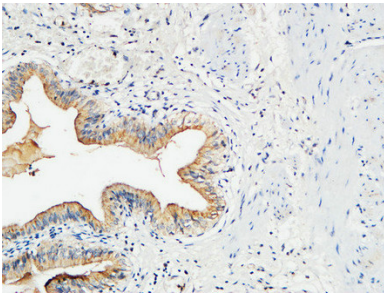
1: 500 に希釈した MMP-7 ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット分析



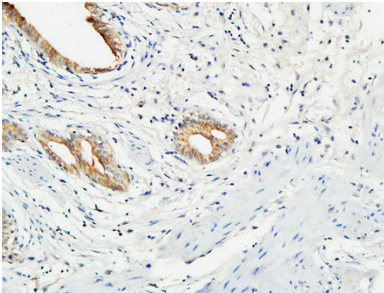
1: 500 に希釈した MMP-7 ポリクローナル抗体を用いた COS7 細胞のウェスタンブロット解析



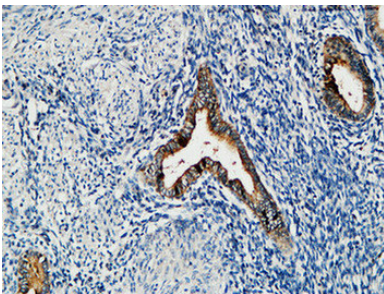
パラフィン包埋ヒト胆嚢の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:100 (4°、一晚) に希釈した。2、高圧高温 EDTA (pH8.0) を抗原賦活化に使用した。3、二次抗体を 1:200 (室温、30分) に希釈した。



パラフィン包埋ヒト胆嚢の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:100 (4°、一晚) に希釈した。2、高圧高温 EDTA (pH8.0) を抗原賦活化に使用した。3、二次抗体を 1:200 (室温、30分) に希釈した。



パラフィン包埋ヒト胆嚢の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:100 (4°、一晚) に希釈した。2、高圧高温 EDTA (pH8.0) を抗原賦活化に使用した。3、二次抗体を 1:200 (室温、30分) に希釈した。



パラフィン包埋ヒト子宮の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:100 に希釈 (4°、一晚)。2、高圧高温 EDTA (pH8.0) を使用して抗原賦活化。3、二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30分)。